

<ISO(国際標準化機構)TC173(福祉機器) SC1(車いす)WG会議の紹介>

<ISO会議の紹介と研究所での開催>

福祉機器も外国から輸入したり、外国へ輸出します。それぞれの文化や人種などの違いを超えて、共通の言葉や同一方法で測定された性能は機器を使用する人に多くの安全性とともに正しい情報を与えます。それらを決めることがこの会議の目的です。

会議の進め方：世界中の専門家が集まり、規格案を作り、それを各国が賛否、意見を加えながら作り上げます。年2-3回各国で開催されます。

対象：車いす、電動車いす、障害者仕様階段昇降機、クッションや座位保持装置、マットレス

平成20年5月24日～30日まで研究所で、日本を含め外国から7カ国（米国、英国、スウェーデン、デンマーク、オーストリア、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド）25名の委員が参加して開催されました。



座位保持装置での座位姿勢の計測について日本で行なわれている方法を説明しています。

さいごに：今回のISO会議は日本の状況を海外の専門家に知っていただく機会となりました。



日本の文化も味わっていただきました。

研究代表者

国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部廣瀬秀行 hirose-hideyuki@rehab.go.jp

